

科目名	写真概論			科目コード	2024
開講学科	共通専門科目	単位数	4	形態	講義
教員名	小川 幸三				
授業の目的及びテーマ					
眼で見たものとカメラ・レンズを通して見るということの異なりを通じて、想像力と読解力の感じる愉しさを学ぶ。撮って見ることでメッセージが世界に増殖するユートピアのきっかけとなる。					
授業概要					
カメラで撮る。どのように撮るかが問題となる。多数、写真を撮るなかで様々な触れる機会に出会うことが大事であり、そのときの感情をどう受け止めるかのまなざしにある。身体の外部と内部の刺激させて働きかけが表れてくる。ワンカットずつの積み重ねた時空間を問いかけて見よう。					
授業計画					
第 1 回：1880 年ごろのディファレンシャル・フォーカシングの考え方について。 第 2 回：主観的と客観的要素について。 第 3 回：芸術写真のありかた。アルフレッド・スティーグリッツのストレーテ・フォトについて。 第 4 回：道具の使用と制作について。 第 5 回：眼球とカメラとの関係。視線の在り方に奥行き表現として遠近感の成立について。 第 6 回：今がある。過去の断片的な感傷は現実・真実が物語としての記録性について。 第 7 回：何かを語るのではない。つねに新たな虚構を生み出す写真家はジャーナリストについて。 第 8 回：一枚の写真には社会とどのように関わりあっているのかについて。 第 9 回：写真には新しいイメージを生み出そうとする楽しみについて。 第 10 回：いまここを自問自答しながら意識と無意識を通して撮り続ける写真について。 第 11 回：写真が持つ断片化メディアの特性とジャクソン・ポロック作品の関係について。 第 12 回：あらゆるものが目撃され、刺激と気配を感じながら常に新たな空間を追い求めるについて。 第 13 回：人工物と自然との領域のあいまいについて。 第 14 回：フィルム写真とデジタル写真にみるデータ管理と複製変化に見られる機能について。 第 15 回：空間のまなざしに見え隠れする不思議さについて。					
テキスト	「フォトアート」有野 永霧・土田 ヒロミ・まつうら やすし・矢野 彰人 共著		参考文献	「写真と文学」塚本昌則 「鏡像と奥行」船木 亨	
評価方法：					
レポートは A4 サイズに 2,000 字数位で作成してください。提出課題件数と課題内容の理解度と将来に向けた展望（所見）の記載等が評価となる。					

課題提出

課題件数 3 件

課題概要

課題 1. フォト・アートのテキスト

第 1 章～第 8 章のテキスト文面から発見した要素や意義等を 3 項目を選びだしコメントください。

A4 サイズ (一枚表紙、本文 2, 3 枚。図式・写真も加える) 2,000 字以上で提出ください。

例 (なぜ人は写真を撮るのか、時間の移り変わり、ルネサンスの遠近法、広告写真について)

課題 2. 私のベスト・ショット 3 作品以上とレポート提出。

これも近未来型といえる作品を求める。 はがきサイズ位で提出。提出は、厚台紙で見栄えよくみせる。

レポートは、近未来型作品を論理的文体で、A4 縦 1,200 字数位で提出してください。

※現代作品には、論理思考を求められる。

論理的描写は、評価を考えた文体とする。文面については、部分全体より全体部分で「したがってこのようになったか」創作に込めた動作性の強さ、経過、経緯を表わして前提となる条件に導く。

原因・理由を説明する「なぜならば」ではなく、結論を導く「したがって」「だから」扱う必要がある。

具体的に述べることを要求されている。

課題 3. テクニカル・フォト 第 5 章. 身体行為がもたらす表現として・・・ 画像自動ソフトは使わない。

課題□ 多数写真を貼り合わせて「コマ割り又はコラージュ」どちらかを作品として仕上げる。

課題□ 「この制作にあたって」を A4 に 1,200 字位でコメントください。

まず、同じ被写体をカメラで上下・左右・前後と異なる角度 [1] 10 点程を撮る。※指定材料になる。

A4 に「10 コマ割り」作品として A4 一点以上で提出ください。(コマ割りはデジタル合成でも良い)。

一枚の画面に、コマ割のラインを書き、貼り付けた現物作品を複写した作品も良い。(漫画のコマ割りのような変形コマ・フレームも可とする)。

「コラージュ」は、絵画でいう。貼り付けになる。現物を貼り合わせた後、複写したプリントも良い。

コマ割りの主は、フレーミングとフレーム展開になり、コラージュは、切り抜いて貼りこむ作業に重なる作業となる。どちらも貼り付けた行為になる。

カラー・モノクロ。複写・合成等の貼り合わせ。平面・立体は問わない。カメラ機種も問わない。

[1] フォトアート 第 5 章 57p

有野氷霧・土田ヒロミ

まつうらやすし・矢野彰人

(発行者 大阪芸術大学通信教育部)

課題レポート提出様式

表紙 A4 縦、課題名、題名、科目、所属、作成日 学籍番号、氏名 本文は記された文字数の前後。

写真は記録性を伴うが、見る側に想像性を抱かす写真であるべき。

レポートは調べたこと、読んだこと、問われたこと対し答えることにある。

引用は、調べた証であり、それにより信憑性が高められるので記載すること。